

第3回 自動車の高度化に伴う安全確保策のあり方検討会

1. 日 時：令和4年2月16日（水）10：00～12：00
2. 開催方式：WEB 会議方式
3. 出席者：飯田委員、伊東委員、岩貞委員、加藤委員（代理：関口氏）、
小池委員、木場委員、須田委員、竹内委員、廣瀬委員、船越委員
4. 議事（概要）

【事務局からの説明】

○本検討会における検討事項及びスケジュールを再確認し、第2回検討会における事務局／各団体からの説明概要及び委員からの主な意見についての整理を示した。

○本検討会の検討事項に関する進捗状況等を説明した。

- ・ 車検／法定点検／日常点検における確認項目の見直しに向けた検討状況、個別故障コードに注目した調査・分析結果等を説明した。
- ・ 不具合／故障データの利活用策の検討に向けた第2回検討会以降の各団体との検討結果等を説明した。

○本検討会における中間とりまとめの骨子（案）を説明した。

【委員からの主な意見】

○故障コードについて、整備現場では1つの不具合／故障に対して複数コードが発現される等の事象も確認されており、整備サービスにおいて故障内容を特定できず困っている。ユーザーに対する的確な整備サービスを提供するうえで、コードの定義の開示は非常に重要であるため、ぜひ検討いただきたい。

○近年、自動車におけるシステム間の協調制御が進んでいることから、一度に複数の故障コードが発現する事象が生じており、メーカーのサービス現場及び系列ディーラーの現場においても不具合／故障の主原因特定は課題となっている。そのため、メーカー側でも故障コードに係る更なる情報整理及び開示に向けて検討を進めている。なお、基本的に故障診断に必要な故障コードはすべて開示しているものの、メーカーが認識していないコードが汎用スキャンツールでは発現しているといった状況も承知しているが、メーカーとしてコード定義を提示することができない。

○故障コード体系の統一の動向については、海外においても、日本の取組状況と同等レベルであると考えており、ある程度コード体系には自由度が認められていると認識している。自動車メーカー各社でシステム構成や装備等が異なることを踏まえると、故障コード体系を統一することは困難ではないか。

- 整備業界においても車載式故障診断装置（以下、OBD）を活用した検査及び点検整備への取り組みを進めており、今後ますますOBD活用の重要性が高まってくる。特に、整備工場における自動車技術の進化への対応のため、OBD活用が大きな課題だと認識している。そのため、不具合／故障データの更なる開示、スキャンツール等の改善、スキャンツールで読み取った情報に応じた対応の検討や、当該情報の検索性向上等についても更に推進する必要があると考えている。
- 長期使用車両では整備を要する箇所が増加することが明らかになっており、長期使用車両の点検項目を作成することはできないか。
- 車検時には検査員が車台番号や走行距離を確認して記録簿に記載しているが、OBDを活用して車両から車台番号や走行距離等のデータを読み取るなど、検査や点検などの効率化へと繋げていく必要があると考える。
- 自動運転技術搭載車や電動車の適切な使用方法に関する啓発活動において、動画製作によるユーザーへの呼びかけを行ううえでは、官民連携も重要だが、当該情報を必要とするユーザーに対し、いかにして誤解を与えないよう適切に情報を届けるかを業界において検討する必要があると考える
- 「中間とりまとめ 骨子（案）」について、全体として車両にのみ注目し過ぎていると考える。ドライバー、車の使い方の変化等、自動車以外の要因も考慮して俯瞰的な視点をもって作成いただきたい。